

国際経済

秋山裕研究会

嘉治佐保子研究会

木村福成研究会

駒形哲哉研究会

松浦寿幸研究会

秋山裕研究会

—経済発展論・計量経済学—

1. 研究分野

経済発展論は、国際経済分野の1つです。国際経済分野は、グローバルな経済のシステムを、構造的かつ総合的に扱う分野です。その中で、経済発展論は、一国が途上国から先進国まで発展するメカニズムに焦点を当てた領域になります。国や地域は限定されず、国際比較が多用されます。

当研究会では、「経済発展」をテーマとした研究を「計量的分析」を活用しながら行うことを基本としています。経済発展を促進するために私たちは何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」を組み合わせることで探求していきます。研究対象とする国・地域がどのような「経済構造」になっているのかを「経済理論」に基づいた経済モデルによって明らかにし、それを手掛かりとして具体的な経済政策を立案していきます。経済発展論については、『経済発展論入門』（秋山裕著・東洋経済新報社）をざっと読まれるのもよいでしょう。

三田祭論文の作成などを通じてグループで論文作成について学び、それを基礎に個人で卒業論文を作成していきます。

2. 学生への要望

経済発展の「理論」についてあらかじめ勉強しておく必要はなく、日吉での「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。

計量的分析を行うにあたっては、「統計学」が必要ですが、計量経済学概論の履修は前提としていません。「統計学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。コンピュータを活用しますが、特別な技能を学ぶ必要はありません。

ゼミ活動はグループ活動が基本となりますので、自分が持っている長所を、ゼミ全体の活動に生かしてくれればと思います。

3. 選考について

1 募集人数

A 日程 10～15 人(欠員が生じた場合のみ B 日程を実施)

2 選考内容

筆記試験 2 科目 (マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、英語から 2 科目を事前に選択) と面接。筆記試験 (2 科目計 60 分) は各科目から 10 問ずつ基礎的な理解を問う問題を出題。面接は 1 人 15 分程度。面接にあたっては、成績表と、事

前に記入してもらう面接用資料を、参考として提出していただきます。(詳細はゼミ HP をご参照ください。)

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：日本語で参加可能ならば可

4 選考基準

学力、意欲、集団での学習への適応力の総合判断です。(学生は選考に関与しません。)

Sahoko KAJI Seminar

— (Seminar) —

1. Field of study

Open economy macroeconomics,
European Economies

2. Expectation for students

Independent thinking, Openness,
Intellectual curiosity

3. Admission

1 Quota

About ten

2 Exam

Written examination in English on
macroeconomics and microeconomics, oral
exam

(interview) with the professor and current
students

3 Whether or not accept PEARL

students or students from other
faculties? We also admit qualified
students from PEARL and other
faculties

4. Criteria

Applicants who meet the criteria for
entering PCP take only the oral examination,

regardless of whether they apply to PCP.

木村福成研究会

—国際経済学・開発経済学—

1. 研究分野

本研究会では、国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論と、発展途上経済を分析する開発経済学を、理論と実証・政策研究の両面から学んでいく。北東アジアと東南アジアを含む東アジアは、少なくとも製造業に関する限り、世界でもっとも進んだ生産工程・タスク単位の国際分業、「第2のアンバンドリング」が展開されている地域となっている。生産ネットワークを拡大・深化させる余地は大いに残っている。一方、デジタル・エコノミーの到来により、東アジアは新たな開発戦略を模索する必要性が生じてきている。今後の国際通商政策体系、メガFTAsの動向は、これらと密接に関連している。本研究会では、国際経済学と開発経済学についての基礎的理解を土台とし、現代の日本経済、東アジア経済、世界経済が抱える諸問題について議論していく。研究会の活動内容は、経済学を踏まえつつも大いに実践的である。教材は基本的に英語文献のみを使用する。論理的な文章の執筆、説得力のあるプレゼンテーションを重視する。使用言語は英語でも日本語でもよいものとする。研究者・エコノミストや国際公務員を希望する者はもちろん、広く国際的な分野で活躍するビジネスマンを目指す諸君にとっても、有用な教育サービスを提供する。私の最近の主要研究テーマは、国際

的生産・流通ネットワークのメカニズム解明、新興国・発展途上国とデジタル・エコノミー、東アジア・アジア太平洋の経済統合戦略などである。『国際経済学入門』(2000年、日本評論社)、『東アジア生産ネットワークと経済統合』(共著、2016年、慶應義塾大学出版会)、『国際経済学のフロンティア：グローバル化の拡大と対外経済政策』(共編著、2016年、東京大学出版会)、『揺らぐ世界経済秩序と日本：反グローバリズムと保護主義の深層』(共編著、2019年、文真堂)などを参照してほしい。また、ASEANおよび東アジアの経済統合を推進するためにジャカルタに設立された国際機関、東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)のチーフエコノミストも務めている(<http://www.eria.org>)。

2. 学生への要望

日吉で経済学をしっかりと勉強してきたとか、英語を鍛えたとか、コンピューターに熟達したとかいうことは、将来必ず役に立つ時が来るだろう。しかしそれ以上に是非やってきてほしいことは、国際経済・開発経済、あるいはもっと広くグローバル化する国際社会が抱える諸問題について関心を持ち、新聞に目を通し、本をたくさん読むことである。できれば経

経済だけでなく、その他の社会科学・人文科学も広く勉強して、国際人となるにふさわしい真の教養を身につけてほしい。誰の意見であれ鵜呑みにすることなく、自ら考え、自ら調べ、自ら行動する人間になることが、最も大切である。

PEARL 生も受け入れる。また、海外留学を計画している学生、SciencesPo ダブルディグリーの学生も歓迎する。

3. 選考について

1 募集人数

A 日程のみ実施する。募集人員は AB 学生、PEARL 学生を合わせ 16 名程度とする。

SciencesPo DD 学生 (AB/PEARL) は別枠とする。

2 選考内容

A 日程選考日当日、小作文と面接を行う。小作文は、「経済活動あるいは経済政策のグローバル化に関連する問題を 1 つ取り上げ、その解決に向けて経済学はいかに役立ちうるか」という問いに答える形で、当日 1 時間半の時間内に執筆してもらう (持ち込み不可、日本語または英語)。面接は、個人もしくはグループで行う。

3 他学部入ゼミ：受け入れる。

PEARL 生受入れの可否：受け入れる。

4 選考基準

小作文 50%、面接 40%、入学以降の成績 (成績表のコピーを持参すること) 10% のウェイトで得点順に選考する。知識、プレゼンテーション能力はもちろん重要であるが、それ以上に自らの頭で考えているかどうかを重視する。

駒形哲哉研究会

—東アジア中国経済論・経済体制論—

1. 研究分野

皆さんが生まれる何年前に、中国は市場経済の道を本格的に歩み始め、皆さんが生まれて間もなく、中国は「世界の工場」と呼ばれるようになりました。その後、巨大な国内市場も注目されるに至り、そして現在、中国経済はモノだけでなくカネの面でも影響力を持つようになっていきます。

中国は GDP 総額では世界第 2 の経済大国となり、中国の経済変動が、先進諸国を含む世界の経済に対し、大きな影響を及ぼすようになっており、中国経済の変動で日本円レートや日本企業の株価が動く時代に入っています。もはや中国と付き合うかどうかを好き嫌いで決められる段階ではなく、今や中国国内で発生する様々な問題が世界経済のリスクとなる可能性も高まっています。最近ではアメリカとの「貿易戦争」の影響が世界経済を揺さぶり、さらには中国経済の台頭が世界の政治経済秩序を変えるほどのインパクトをもちつつあります。中国のやり方、ルールに対応しなければならない時代が来ているのです。

日中両国はよく「一衣帯水の隣国」と表現されますが、隣国だから考え方が似ていると思うのは全くの誤りです。中国が国際社会でとる行動を理解するには、その政治経済体制や人口・市場の大きさ、多様性・階層

性がもたらす固有の発展のあり方を、歴史的過程とあわせて把握する必要があります。中国経済の分析には相応の訓練を要します。また、当ゼミは中国に進出する日本の中小企業のフィールドワークも行っていますが、この作業は、私たちが暮らす日本の経済・産業・企業の可能性と課題を理解する最高の機会となっています。なお、当研究会の目標は「中国通」の養成ではないことを予め強調しておきたいと思います。

2. 学生への要望

・研究会の活動を最優先して、積極的に参加する意欲のある方のみ参加を許可します。個人、グループ、全体での活動に、かなりの時間を要するので、とにかく研究会を最優先できることが第 1 条件です。

・研究会活動は狭い意味での勉強だけをやる場所ではないことが理解できる方の参加を希望します。

・研究の必要上、第二外国語などで中国語を学んだ経験があるか、もしくは中国語を学ぶ意思のある方を歓迎します(ただし、入会の必要条件ではありません)。

・事実情報の丁寧な収集やフィールドワークから帰納法的に研究する手法を志向する方の参加を歓迎します。

・台湾経済や、中国を視野に入れた国際

経済の研究を希望する方も受け入れます。

3. 選考について

1 募集人数

10 名以内 (AB 両日程合計)

2 選考内容

- ・ 志願書の内容についての面接
 - ・ 自分の設定したテーマによるプレゼンテーション (5 分程度)、質疑応答

3 他学部入ゼミ：可。

PEARL 生受入れの可否：可。

*ただし他学部生、PEARL 生であることについて特別な考慮はしません。

4 選考基準

中国経済ないし中国を含む国際経済の研究を通じてさまざまな問題を探究していく意識と研究会活動を最優先して参加する意欲の有無をみます (本ゼミの時間以外に実施されるフィールドワークや中国研修旅行 (夏季休業期間)、他大学との合同ゼミなどに参加できることは必須条件です)。

松浦寿幸研究会

— (国際経済学・地域経済学・産業組織論) —

1. 研究分野

教員の専門分野：企業・個人・製品レベルのミクロデータを用いてグローバル化が企業・雇用・イノベーション・地域経済に及ぼす影響に関する実証研究を行っている。国内外の政策シンクタンクとの共同研究や欧州・アジア各国の研究者との共同研究にも積極的に取り組んでいる。詳細は教員の WEB サイト

(<https://sites.google.com/site/matsuuratoshiyuki/>) を参照のこと。

研究会の概要：本研究会では、「グローバル化が社会経済に及ぼす影響の考察」と「データ分析」を二本柱とする。経済のグローバル化は企業立地やイノベーション活動、さらには労働市場や地域経済など様々な側面に影響を及ぼしている。こうした影響を定量的に評価するために各種統計データと最新の分析手法を駆使してその要因を分析し、都市の国際競争力の高めるための施策や地方創生の処方箋について議論する。また、こうした問題の理解を深めるために国際経済学・空間経済学・産業組織

論・経営経済学を基盤とする理論・実証の関連文献を輪読するとともに、統計ソフトを用いた実習を通じて基礎的な分析のスキルを習得する。

データ分析については、統計分析ソフトの Stata を用いて基礎的なスキルを身に付けるほか、2020 年度からは機械学習などでもよく利用されているプログラミング言語 Python(パイソン)によるスクレイピングやオープンデータ・アクセスなどの技術を習得し、これを研究・分析に活用していく予定である。研究プロジェクトの取り纏めが終わった段階で、他大学との合同研究会に参加しプレゼンテーションする機会を設けるが、こうした機会に効果的なプレゼンテーションをするための技術を身に付けるためトレーニングも行う。

さらに、統計分析を補完するものとして、企業訪問や政策担当者へのヒアリングも実施する。本研究会では、学生有志の企画としての視察旅行、スタディ・ツアーの企画を行っているが、これをより充実したものとしていきたいと考え

ている。

研究会の活動の詳細については以下の研究会の WEB サイトも参照のこと。

<https://sites.google.com/view/matsuura-toshiyuki-seminar/>

2. 学生への要望

研究会の活動を優先して取り組める人を募集する。研究会は少人数で学ぶことができる貴重な機会であり、各人が積極的に取り組むことで、研究会の活動をより有意義なものすることができるからである。本研究会では、データ分析を中心に据える。大規模データへの利用が容易になった現在、様々な新しい分析手法（機械学習やデータの自動収集、文字列解析等技術を含む）などが開発されている。新たに利用可能となったデータや分析手法を応用し、国際社会における諸問題を分析することに関心をもつ学生を歓迎する。そのほか、社会に出てから有用なスキル、たとえば英文資料の読解、プレゼンテーションや討論などのスキルの向上も図る。また、幅広い見識を身に着けるため、参加者の要望に応じて企業訪問や政策担当者へのヒアリング、他大学との交流など幅広い活動を行っていく。こうした活動への積極的な参加も期待される。

3. 選考について

1 募集人数

10 名程度

2 選考内容

面接・レポート・成績表による。レポートについては以下のゼミの WEB サイト

も参照のこと。

<https://sites.google.com/view/matsuura-toshiyuki-seminar/>

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：日本語で参加可能なら可

4 選考基準

面接 40%、レポート 30%、成績 30%